

女たちへ

京大 女解放研究会

— も — く — じ —		19-31
・ こんなのやりました (活動報告)	1	
・ 女の夕マエ女のホント (まりこさんライブに参加)	5	
・ 女たちへ 男たちへ。—長い日—	7	
・ ミスターカ (女のグループ紹介)	9	
・ 母の本 奥山こい	10	
・ 編集後記	12	

こんなのやりました！

— 11月祭 活動報告 —

女解研では11月祭企画として、講演会「女の労働を考えるPART II」と女のスペース「トリビュート」とその一環として小林まりこさんのコンサートを行ないました。その模様をお知らせします。

A. 講演会「女の労働を考えるPART II」

11月15日(土)午後1時～ 於 教養部 A141教室

講師 津村朋子(大阪統評婦人協議会議長)

この講演会には、他の大学の女性問題サークルの人も含め、約50人が参加して来ました。女解研からの基調報告・津村さんの講演の後、活発な討論がなされました。

津村さんはまず、御自分の歩みから話し始められました。職場のNHKの中で婦人部活動を始められたのは、入社後数年たって、実際に昇進差別など社内の女性差別を痛感させられたからだとのことでした。そこで、就業規則や労働協約を掘ってみると、賃金体系、家族手当、年金制度、住宅ローンなど、様々な差別が制度的に女の労働者にかけていることがわかり、婦人部を組織してその撤廃に向けた運動を開始され、結局そういう差別を全部なくすのに7年かかったそうです。

本論は、女子労働者をめぐる状況、統評婦人労働者のたたかひの紹介、1985年をめざすたたかひの3点に分かれます。

現在、婦人雇用労働者数は310万人(79年)と20年前と比べて2倍近くになり、うち310万人がパート労働者で占められています。M字型雇用の浸透の中、高年パートの増加にともなって、給年は男子を100とした場合、78年に56.2、79年に54.9とダウンしつつあり、女子労働の状況は厳しくなっています。

その中において、政府は企業の要請に基づいて、労働基準法改悪(母性保護の切りぢぢめ)を目論み、さらに以前から運動の側で言われていた「男女雇用平等法」を利用・先取りして、「保護」と「平等」を引き換えにしようとしています。また、昨年 国連の女性差別撤廃条約に日本政府が署名したわけですが、このハイレベルな条約の批准に向けて政府は、労基法改悪—平等法制定とからめて、いかに政府・資本の都合のよい形に骨抜きするかということに苦心している状況です。

このような政府・資本の動きに対して、総評婦人労働者は1970年頃からの第一次労基法改悪の動き以降、地道な闘いを組んできたそうです。国際婦人年国内行動計画に対しては非常に総論的で具体的な実りの少ないものであること、労基法改悪が示していることなどから、総評の婦人労働者は全面的に反対しこの運動の中から労基研報告に対する第二次労基法改悪阻止の闘いが生まれてきたそうです。(労基研報告批判は省略) この闘いは大まか発展し、例えば大阪総評婦人協では、未組織を含む2万人の婦人労働者を対象にしたアンケート調査などに取り組んでこられたそうです。しかし、全体的な状況としては人事院規則が改悪(労基法改悪の先取り)されるなど、まだまだ守勢に立たせられており、差別撤廃条約早期批准・完全実施に向けての取り組みと併せて、より広範な女を結集させていく必要があるとのことでした。

最後に、女の問題などふきとばしてしまうような戦時体制への移行を絶対に阻止せねばならないこと、「男は仕事、女は家庭」という社会通念を変えていく運動が必要なることを強調して津村工女の講演は終わりました。

その後の質疑応答では多くの問題がまきまきされたので、以下主なものを紹介します。

生理休暇の「乱用」が言われることについてはたとえ実際の周期とずれているようが、その期間に



何をしていようが、労働の場から離れるという意味で、生理休暇はとるべしだ
ということ、女の身体にとって、それだけの休暇がなくては働けられな
いということを主張され、「乱用」は女が不定期に休みをとる嫌う経営者の口実
であるとのことでした。

育児休業制については、日本の現状ではおぼろげに取らされ、女を家に遠い
返すものとなっているので、積極的に賛成できない。政府は、妊娠中・育児中
の女を家に戻した方が労働効率が上がるため、育児休業制を全職種に広げたいが
っている。もし仮に育児休業制を採るならば、休業後の原職復帰の保障、有給
休暇のあること、男女どちらがとってよいことという条件が必要となる。

労基法改定の具体的な手続きに関しては、男女平等のガイドライン作成作業
をしている労・使・公益三者構成の男女平等問題専門委員会が、労働審判が訴
問後までしている（この作業を終えないと労基法改定案を個人少年問題審議
会にかけることができない）。労基法の問題は、雇用平等法、差別撤廃法等と
複雑にからみ合っているので、'85年までには通らない見込みなので、それまでの
時間を運動の側でどれだけ有効に授けようかが問題となる。

他の婦人、男性労働者、総評以外のナショナルセンターとの共闘は、分断を
おこしているだけに難しい問題。未組織・パート労働者たちの労働者意識の
欠如や、社・共・民社・公明とからん下政連と労組の関係が壁としてあり、今
後の課題となっていること等。

今回の講義と質疑応答の内容は、私たちにとても学ぶべきことの多いもので
ったと思います。特に、差別撤廃条約の批准問題は、これからさらに学習し、
学内外の女たちとの共通認識として広めていかねばならぬと決意を新たに
しました。

なお、本講義終了後、女解研のメンバーを中心に集友会館において交流会
を行いました。

（当日の講義テープは女解研にありませぬので、借りたい方はお申し出下さい
ば、お貸し致します。）

B. 女のスペース「トリビュート」

11月22 ~ 24日 於 文学部3環

11月祭期間中には、女のスペースとして女たちの交流の場を設けました。他の大学の女性問題サークルの機関紙やパンフを並べ、ジャンバラの橋カで女の本、ミニコミの販売を行いました。他の大学の人も訪ねてきてくち、お茶を飲みながら楽しい交流がもてました。

C. 小林まりこコンサート 11月24日午後3時半〜

「トリビュート」の一環として、小林まりこさんのコンサートを行いました。部屋の中は、期待に胸を踊らせて集ま、E40人余りの女たち(勿論、男もいました)の熱気でむんむん。女の気持ちをズバリ歌いあげるまりこさんの歌に、共感の手拍子あり、笑いあり、一緒に歌い出す人ありで大騒ぎの和気あいあい。コンサート終了後、男と女の関係など、活発な発言があいすぎ、女の問題を考えていこうという女たちの広がりを感じられたひとときでした。

(講演会同様、当日のテープあります。貸し出しします。)

伝言板

女性解放論史 学習会 やりま。

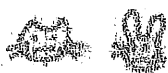
2月 ~ 3月。 詳細来庄。

参加希望者は、連絡下さい。

連絡先、東大文学部学友会発行 女解研会
TEL. 東大内線(070-751-2111) 2722

伝言可

又は、X-Lバーまで



女の夕子マエ・女の木ノネ 小林朝子のライオン
参加して

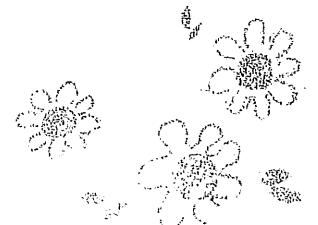
d. f. a. b. c. 西野 史子

初めて、まりこさんの生歌を聞き、予想以上に感動した。とらよりエッセイをうけたという方が正しいだろうか。それならばテープを聞いて、「女エロス」や「朝日ジャーナル」を読んだ、「痛快な人や面白い」と思っていたけれど、やはりライオンは迫力が違う。

「特許のアリス」「中絶のアリス」「日なたアザ」「自己本位の男」「いや男のアリス」「粉砕! 家庭の日」「閉白宣言の後」etc...。あしやべりや参加者との討論をまじえながらつぎつぎに歌われる。まりこさんの歌は、文字どおり「女の木ノネを歌う歌」「男の顔かみまっ歌」ばかりだ。しかも、「差別」や「抑圧」などといううめ、すべりの言葉はほとんどなく、そこにはどろどろした日常生活—男との関係の中での女のうらみやある、くやしさを、怒りや、悲しみがある。といる。

まりこさんの歌は、その場には感動させた可なりで、その場に居る者に感銘を与えてくれる。しかし、その共感、様々あるが、一様ではない。私自身にしても、一曲一曲感じ方がちがっている。ある歌は、まったくの「異議なし」、つまり私自身も共感して、そして表現していることそのものだ。そんな歌は、大声で笑い、一緒に歌い出さる。ある歌は、「よくを聴いてくれた」という感じ。ウウウウとしているが、表現するすがすがしさをズバリ歌ってくださる。うめしくほめてくださる歌は、私の胸にグサリと突きささる。それは私が意識するしほいにかかぬらぶ目もとみけたまじも、私の弱さ、男への甘え、男にたいする甘え etc をえぐりだして「自己主張する女」という私の夕子マエを、こっぴどく人にししてあげる。もちろんだ、「少し感じ方がちがうアザ」という歌もあるが...

まりこさんの歌は、確かに女の木ノネ歌っている。
その表現は痛痒で、多くの女をひきつけ、女への、そして男への同感理解にならば。しかし、それは逆に女の



女たちがこの山を 自分たちの木と 歌を歌うべき山と

いふことをも 承しているのではないだろうか。私たちが 二人の歌を歌うことも
それは 二人の歌を歌うことも、その山は 二人の木と歌である。私たちが
と歌うのではない。 二人の山は 二人の歌を「代弁」して 二人の山に歌う。私たちが
自身のこととする。 二人の木と歌を歌うのではない。 女たちに。 男たちに。
そしてこの社会に向かおう。

一人一人の女が自分自身のこととして 自分たちの木と歌を歌う時、この社会
— 女を縛りつけ、おとしめ、苦しめる社会 — は 大きく動き始めるだろう。
私たちが、オオ、オオの山を 二人の山に 二人の歌を 二人の山に 二人の歌を、二人
の山の想いを 二人の山に —。

P.S. 今年に於いて マスクが「やけに 二人の山を とりあげている。



表面上は「女の時代」といって 二人の山を 二人の歌を 二人の山に 二人の歌を、二人
の山の想いを 二人の山に —。 その背後には
圧倒的に男優超の社会において「まあ、あの程度の女のたれ言は許して
やろういゃ「いいか」という男の傲慢が 二人の山を 二人の歌を 二人の山に 二人の歌を、二人
の山の想いを 二人の山に —。

二人の山を 二人の歌を 二人の山に 二人の歌を、二人の山の想いを 二人の山に —。 二人の山を 二人の歌を 二人の山に 二人の歌を、二人
の山の想いを 二人の山に —。 二人の山を 二人の歌を 二人の山に 二人の歌を、二人の山の想いを 二人の山に —。

二人の山を 二人の歌を 二人の山に 二人の歌を、二人の山の想いを 二人の山に —。

二人の山を 二人の歌を 二人の山に 二人の歌を、二人の山の想いを 二人の山に —。

二人の山を 二人の歌を 二人の山に 二人の歌を、二人の山の想いを 二人の山に —。

長い日

★ ★ みち ★

流産というものをやらされた。

生理のよくなるのは毎月のことだし、体の調子もいいって良かった。食欲モリモリ、まさかと思。それなのに加齢のため、と訪ねた産婦人科の医者言うことには、「流産しかかってるワ」... 手術は明後日、あまり動きまわらないように、とケギをささいで下宿へもどる来た。

産婦人科の手術というものは、ミジメなもんだ。腹を開いて手術台に足をゆわえつけられ、痛いし、ばまけはするし、むかつくし...。世間が期待するまようは「子殺し」の罪悪感など感じない、痛みの、盲腸の手術や足のケガでも痛いだろう。それをも、ミジメ、ミジメなもんだ。

病院のベッドで、二時間程休んだのち、アワアワと下宿へなかう。とってまはく口がたたく。アイスクリームを賢う。パジャマに着替えて、敷きっぱなしのふとんにもぐり込み、休養がオー。

昼間はさめるもまだ、平気だよね。ウトウトしたり、雑音も聞こえたり。じんじん暗くばるまるともうダメ。長いこと、何も食ってないことに気がついて、起きあがるのがあつこうで。そういえば、昨夜、女房たちが訪ねてくれたとき、医者と言った以外とは口を聞かされてた。そう気付くと、むしろ人恋しい。あーあ、「交通事故のようなもん。平気、平気」なんて言われてりゃ良かった。もっとも、あの時は、本人もそう思ってたんだからしょうがない。

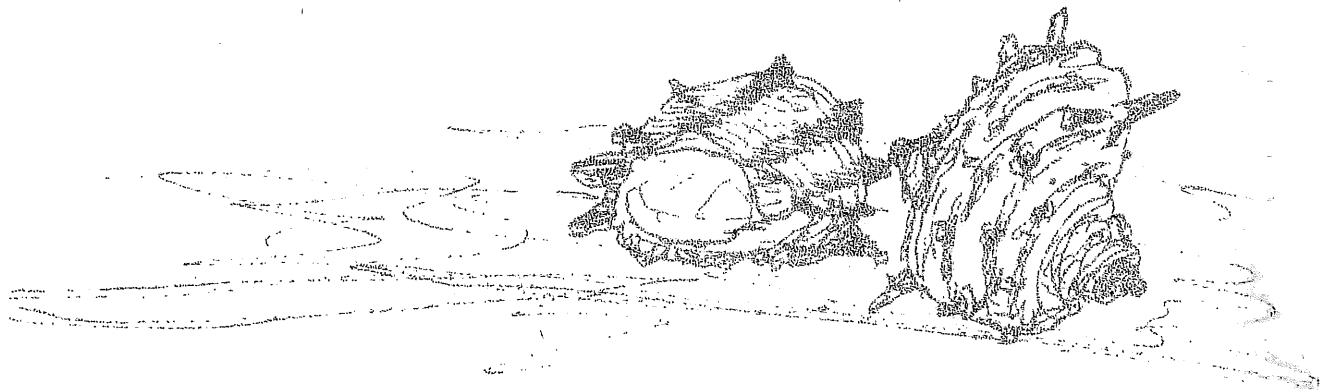
こうなると、被害者意識ばかり湧いてくる。なんで私ばっかこんな目に会わねえらんぬん!! 男なんて冷たいもんだ。フツフツとくもくもくだし、おぼろげにささるりじゃないか!! ついて来んてほしいと言ったのは私だし、後で彼がまた腹の調子が悪くてまた大変だった。と理解するわかってるとしても、感情の力が承認しない。と山にしてものせきにさらされてもバチはあたらん。自業自得10分じゃないか!! 血毒で死んじやっても知らぬーか!! 何かに思いついて、100年分の涙を流した。

女中とのくやしきは、何度も経験したけれど、女中との抑圧にこれ以上のものはあるだろうか。

男。と何だろうと考えてしまった。少々間の抜けたところはあるけど、女にできる感性だけは、イイ線いってる方だと思っていたのに、何にもわかってくれない。いちばんつらいときに、何をたすけにもならない。男にわかれといふ方がムリなのか、期待するほうがまちがっているのか。

彼なりに心配している様子ばかりか、生々しく、その姿も私にくやし。

男なんて、しょせんそういふもの。アテにするならうらぎらぬ気がする。アテにしなければ、^そ^ん^な^りに^い^い^ま^えよ。というような新切りかたは、私に私にしたい。



＝ シ ス タ ー ズ ＝

自己主張する女にたいする、世間の風あたりは強いが、どい女も負けては
おらぬ。がんばっている女はたくさんいます。この欄では、そうした女たち
の力強い姿を紹介したいと思います。

自己主張する女は美しい。 私たちに 勇気 を与えてくれる。

— その 1 —

シャンバラ

中央区西の京町30 田丸市場地下

TEL 821-3177

火曜から日曜まで 毎夜6時から10時までやっています。今のやりかたは、おまじなの
1時と半時前。それまでの歴史は、いろいろとあるのですが、ここではあえて省きます。

毎週、日曜日、午後7時からスナック・ミーティングをもちます。集まってくる人がざっと10人。
今週のお店当番を決める他、いろんな話し合いをもちます。冬場になると寒くなり、
「ヨガクラス」がお休み。この春までつづけていた英会話クラスも休止。このスペースを
維持するために、収入源となるクラス企画に頭をひねらせ、試行錯誤して
ゆくとき。それを働いているので、時強もなく、先立つものもと厚く力を出
合せてつくっているスペースです。



このおもしろい動きとしては、毎週火曜日の夜の「ヨガ
クラス」、毎月第4土曜日の「詩と歌のコンサート」、12月からの「朝鮮語コーサ」。

グループワークとしては、「ミス選抜」編集部、公開文学講座、そしてあらたに「中絶の氷を
考える会」などがあります。どんどん参加して下さい。

現在、シャンバラは、100名余の「シャンバラ・マスターズ」たちによって運営されて
います。マスターズは、月々500円の会費をおさめ、特典として、「ミス選抜」が属す
他、シャンバラ会場が利用できます。

2月7日には、小林まりこさんのコンサートを予定しています。(17:00～)
スタッフ一同、身元のりたしつ。あなたの登場をまておきます。では。

(発行のつぎで、掲載が遅れたことをお詫言します。)

二 竹の 春 ぶ け こ け 二

雪

『シュルレアリスムと性』

グザヴィエル・ゴーチエ 著
三好 雅朗 訳 朝日現代叢書

シュルレアリスムは、物質から意識に至るまで、付着するすべての先行的イメージを、驚愕と衝撃をも、多岐にわたる、両極端しようとする革命危機を自覚した。エロスの破壊力をして、キリスト教とブルジョア社会の崩壊を、その後に残るべき女権制を予告させた。しかし、その結果として性を抑圧し、「倒錯」を否定し、女性を除外する反革命的な秩序にまで進行してしまっただけではない。

著者、グザヴィエル・ゴーチエは、人間の解放をのみならず革命思想によって、人間存在の根を揺るがす性の問題こそがその試金石であるとし、ブルトンをはじめとしたシュルレアリスム・グループの絵画・文学等の芸術運動を分析している。そこに述べたものは、一夫一婦の愛=愛美・女性の理想化、性差の性差への固着等、彼らの徹底した男根主義であり、「女性除外神話そのもの」であるという。彼らにとっての女性の墜落とは、意識の同一視にすぎないといえる。女性差別を温存したままのエロス、性の解放など、男の快楽のための女性の解放をいかにせよ。そんななかで、唯一の異色主義者であったクルヴェルの外が、「女性除外神話」に異議を述べた 一部のシュルレアリストであったという指摘は不慮に驚かす。「あとがき」の著者、三好雅朗も述べているが、意識的・無意識的性差別を克服する為の、女性解放への妥協は実感はいたしなくても、常に内なる差別者の存在を認識し、はたよりもまず、自らの性の抑圧状況を意識化することが第一歩なのである。自分自身の肉体をも意識視の対象とすることによってしか、エロティシズムの機関を「男根神話」に打ち破ることは不可能なのだ。フロイト理論についての見解などに矛盾する点もみられるが、グザヴィエル・ゴーチエ、ひとりのものであるの鏡利の視線は、シュルレアリスムに對して、客観主義的文

化に対しても、怒りをもって突き立てていた。 ☐

『テレビドラマの社会学』

村松 素子

創刊号

情報情報時代といわれる今日、最も日常生活に提示される男と女の関係のあり方は、テレビドラマにある。テレビドラマに描き出されるものは、時代の潮流、情緒の反映であろう。NHK総合文化研究所員である著者は、テレビドラマのなかには、どのような男と女が描かれているのか、そしてなぜそれが圧倒的に多いといわれるドラマ視聴者式、どんな意識をもって受け取っているのかを、年代別、個人の特徴を分析し、詳しく検討している。

テレビドラマは、その描く素材と受け手に与える印象から、「近江」と「愛恋」を土台とするホームドラマと、「遠く」と「緊張感」を前提とするドラマティック・ドラマに二大別される。ホームドラマの女たちは、明るく正しい女であり、家族や周りの人々にとっての頼もしい母である。一方、ドラマティック・ドラマの女たちは、薄幸の女、命を犠牲にする女として美化されている。「ホームドラマは女が家庭という世界を中心に生活している限り、その力をあきらめ、他方ドラマティック・ドラマは女が社会に出れば、一見華やかだが結局は憂鬱に陥る、寂しいことが多い。しかも女は弱く、男に教える」役割をもつという。身近なホームドラマの女のかげに、ドラマティック・ドラマの女の苦悩の姿に、憧れを抱きつつ、距離をおいて、自分自身もその苦悩たる家庭を守ろうとするのが視聴者の心理だと。

しかし、家庭観の変遷とともに、マイノリティ主義の登場が露呈してくると、「専らホームドラマ」といわれるものも登場してくる。ホームドラマの歴史を通じて、理想的ママ→良妻賢母タイプ→頼もしい母と多岐にわたるヒロインは、次第に登場してはじめて、主婦が抱える問題を直視し、ヒロイン自身が真の主役として語りはじめたのだ。まだまだ家庭内の役割に限定されはいるものの、それへの懸念がメディアにのりはじめたことは一定の意義

があるだろう。「テレビドラマ」を受取る者として、ここからのテレビドラマが、もっとも、と多様な女性像、そして男性像を描いて、一歩足を踏み出そうとしている私たち女性自身を、そして女性も自分自身として生きたいという願いを、押しとどめたに過ぎるようなものだと感じることを懸念したのである。

お祭りの時から、パーソナルテレビへと、視聴形態も移行しつつある中で、受け手側の、受け手にとってのテレビドラマの必要性の分析、あるいはテレビドラマを端緒としたコミュニケーションの広がり、どのような社会的役割をもつのか、といった視点からの研究も、期待したのである。

— 編集後記 —

- ・ 昨年暮れ発行の予定が、年が越えてしまい、11月号の報告なども遅くなってしまいました。ゴメンナサイ。
- ・ 女解研も、11月号とゴッかけにメンバーもふえ、2年めをむかえようとしています。

この1年をふりかえり、今後の活動の参考にと、今全京大女子学生対象にアンケート調査を行なっています。ぜひ御協力を。

- ・ 去年、政府が署名した「女性差別撤廃条約」は、労基法改悪、平等法制定ともから、早期完全批准への道はまだまだけわしいようです。私たち女解研も、学習会、特集パンフの発行、署名集めと微力ですが頑張っていくつもりです。ともにがんばりましょう!

女解研通信 No 4

「女たちへ」

編集：京大女解放研究会

発行：1981. 1. 31.

連絡先：^{京大}文学部学友会発行

Tel. 京大内線 2722